

平成30年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 1		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、朝の基礎学習に取り組んで学力がついてきた。	-	生徒は、朝の基礎学習に取り組んで学力がついてきた。
結果	教員	A, 8%	B, 66%
	保護者	無回答, 0%	無回答, 0%
	生徒	A, 13%	B, 52%
原因及び反省	<p>○生徒の回答でA・Bの合計は昨年度同時期と比較すると全く同じ割合の65%だった。一方で教員の回答はA・Bの合計が昨年度より6ポイント上昇して74%だった。教員の視点から見ると生徒の取り組み状況が良くなっていることが原因であると思われる。</p>		
改善策	<p>○教員・生徒ともに共通の到達目標を明確にすることが必要である。基礎学テストだけでなく、授業や定期試験等に生徒自身が到達目標まで届いているか確認できるような指導を行う。(各教科) ○上位層から「朝の学習プリントは簡単すぎる」との声があるので、個別に課題を与えるなどして対応する。下位層については、解説を入れる。(各教科)</p>		

意識調査No. 2		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、家庭で勉強をしている。	お子さんは、家庭で勉強をしている。	あなたは、家庭で学習できる指導をしている。
結果	教員	A, 5%	B, 55%
	保護者	A, 12%	B, 32%
	生徒	A, 8%	B, 23%
原因及び反省	<p>○教員・保護者・生徒の回答に大きな開きがある。課題の提出状況は良好であるため、教員目線から見ると家庭学習をしっかりとっているように感じられる。しかし、実際には課題を学校で済ませている生徒も多いため、教員と生徒の意識に大きな差が出ている。</p>		
改善策	<p>○今後も継続的な課題を与えていくことはもちろんであるが、課題の量と質を改善し、学習習慣を身につけさせる指導を行う。(教務、各教科)</p>		

平成30年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 3		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	先生方はわかりやすい授業の工夫をしている。	あなたは、授業参観の機会があれば参加したいと思っている。	あなたは授業の工夫改善に努めている。
結果	教員		
	保護者		
	生徒		
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
原因及び反省	<p>○昨年度同時期のアンケートでは生徒のA, B合わせた回答が82%、今年度は76%と落ち込んでいる。しかし、1学期の成績不振者は昨年度と比較して2割減少し、成績が平均80点以上の生徒も昨年度の29名から38名に増加している。全体的に成績は向上しているにもかかわらず、生徒が授業を理解できていないと考える原因は、今年度教員の転出、転入が例年以上に多く、新しい教員のスタイルに生徒自身が戸惑っている結果ではないかと思われる。</p>		
改善策	<p>○成績自体は全体的に向上しているので、生徒が現在の指導法に慣れてくる年度末にどのような変化があるかを見て判断したい。</p>		

意識調査No. 4		<生徒指導部保健部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、遅刻・欠席・早退をしないように心がけている。	あなたは、お子さんが遅刻・欠席・早退をしないように努めている。	あなたは、生徒が遅刻・欠席・早退をしないように指導している。
結果	教員		
	保護者		
	生徒		
		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
原因及び反省	<p>○A+Bの割合は教員が100% (昨年比+6%)、保護者が96% (昨年比±0%)、生徒が88% (昨年比-2%)だった。                  ○選択肢別の昨年比は、保護者はBが+11%だった。                  ○教員においては、すべての先生が生徒の遅刻・欠席・早退への指導をしていると答えている。                  ○欠席・遅刻・早退はほぼ毎日ある状況である。</p>		
改善策	<p>○家庭との連携、生徒指導部やHR担任との連携を図り、これまでに引き続き教員は意識をして、指導・助言をしていく。                  ○保健だより等により、基本的な生活習慣の改善を促したり、進路指導との関連を図ったりして、生徒・保護者へ働きかけていく。生徒には熟読させる。(保健部、担任)</p>		

平成30年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 5		<生徒指導部>																									
	生徒	保護者	教員																								
	あなたは服装・頭髪など、自らの身だしなみを整えている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。	学校は服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。																								
結果	<table border="1"> <caption>意識調査No. 5の結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A (当てはまる)</th> <th>B (だいたい当てはまる)</th> <th>C (あまり当てはまらない)</th> <th>D (当てはまらない)</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>45%</td> <td>55%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>62%</td> <td>32%</td> <td>6%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>47%</td> <td>36%</td> <td>16%</td> <td>1%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A (当てはまる)	B (だいたい当てはまる)	C (あまり当てはまらない)	D (当てはまらない)	無回答	教員	45%	55%	0%	0%	0%	保護者	62%	32%	6%	0%	0%	生徒	47%	36%	16%	1%	0%
	対象者	A (当てはまる)	B (だいたい当てはまる)	C (あまり当てはまらない)	D (当てはまらない)	無回答																					
	教員	45%	55%	0%	0%	0%																					
保護者	62%	32%	6%	0%	0%																						
生徒	47%	36%	16%	1%	0%																						
原因及び反省	<p>○昨年同時期の調査と比べると、A、Bと答えた教員、生徒、保護者の数はほとんど変化がなかった。</p> <p>○教員が共通理解を持って服装頭髪指導を行っているので、大幅に乱れている生徒はいないが、教員側から見るとまだ不十分であり、一部の生徒が繰り返し指導されているのも現状である。</p>																										
改善策	<p>○普段の授業や学校生活の中で、服装等の小さな乱れを見逃さず、全職員で継続的な指導を繰り返す。</p>																										

意識調査No. 6		<生徒指導部農業部>																									
	生徒	保護者	教員																								
	あなたは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	お子さんは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	あなたは、生徒が部活動や農業クラブに積極的に参加して活動するように指導している。																								
結果	<table border="1"> <caption>意識調査No. 6の結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A (当てはまる)</th> <th>B (だいたい当てはまる)</th> <th>C (あまり当てはまらない)</th> <th>D (当てはまらない)</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>42%</td> <td>53%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>49%</td> <td>26%</td> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>32%</td> <td>24%</td> <td>38%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>			対象者	A (当てはまる)	B (だいたい当てはまる)	C (あまり当てはまらない)	D (当てはまらない)	無回答	教員	42%	53%	5%	0%	0%	保護者	49%	26%	20%	5%	0%	生徒	32%	24%	38%	5%	0%
	対象者	A (当てはまる)	B (だいたい当てはまる)	C (あまり当てはまらない)	D (当てはまらない)	無回答																					
	教員	42%	53%	5%	0%	0%																					
保護者	49%	26%	20%	5%	0%																						
生徒	32%	24%	38%	5%	0%																						
原因及び反省	<p>○昨年同時期の調査と比べると、教員、保護者の数は変化がないが、生徒の数が減少傾向にある。</p> <p>○生徒は、部活動や農業クラブ活動に参加しているが、積極的かどうかと問われると自信がなくなるのではないかと。</p> <p>○教員、保護者は生徒はよくやっていると思っている。</p>																										
改善策	<p>○生徒に自信を持たせるよう指導、誘導する。</p> <p>○何もしていない生徒に対して、生徒指導部や農業部、HR担任により継続的に参加を呼びかける。</p>																										

平成30年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 7		<生徒指導部 保健部>																					
	生徒	保護者	教員																				
	あなたは、高校生活をとおして以前より自信が持てるようになった。	お父さんは、高校生活をとおして以前より自信を持つようになった。	生徒は、学校生活をとおして以前より自信を持つようになった。																				
結果	<table border="1"> <caption>結果 (意識調査No. 7)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>A (%)</th> <th>B (%)</th> <th>C (%)</th> <th>D (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>24%</td> <td>66%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>39%</td> <td>48%</td> <td>11%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>24%</td> <td>44%</td> <td>29%</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>			対象	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	教員	24%	66%	11%	0%	保護者	39%	48%	11%	2%	生徒	24%	44%	29%	3%
	対象	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)																		
	教員	24%	66%	11%	0%																		
保護者	39%	48%	11%	2%																			
生徒	24%	44%	29%	3%																			
原因及び反省	<p>《昨年度より質問の文言が変更している。昨年は「学校生活に満足している (と思っている)」》</p> <p>○A+Bの割合が教員が90% (昨年比+5%)、保護者が87% (昨年比+6%)、生徒が68% (昨年比-1%)だった。</p> <p>○教員の意識と生徒の意識には差が見られる。</p> <p>○教員は、生徒が自信を持つようになったと感じているが、生徒自身は自信を持てるようになったとは思っていない。生徒は自信を持っているという状態に慣れていなかったり、分からなかったりする場合も考えられる。</p>																						
改善策	<p>○引き続き教員間の情報交換やスクールカウンセラーとの連携を図り、生徒が前向きな考えをもって学校生活を送れるように、指導・支援をしていく。(保健部、特別支援)</p> <p>○自信を持って活動している場面があれば、あえて「自信を持って活動しているね」等声をかけ、自信を持っている状態を認識させることも必要か。</p>																						

意識調査No. 8		<進路指導部>																					
	生徒	保護者	教員																				
	あなたは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	お父さんは、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。	生徒は、進路行事を通して卒業後の進路を考えるようになった。																				
結果	<table border="1"> <caption>結果 (意識調査No. 8)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>A (%)</th> <th>B (%)</th> <th>C (%)</th> <th>D (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>18%</td> <td>76%</td> <td>6%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>36%</td> <td>43%</td> <td>19%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>31%</td> <td>45%</td> <td>22%</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>			対象	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	教員	18%	76%	6%	0%	保護者	36%	43%	19%	3%	生徒	31%	45%	22%	2%
	対象	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)																		
	教員	18%	76%	6%	0%																		
保護者	36%	43%	19%	3%																			
生徒	31%	45%	22%	2%																			
原因及び反省	<p>○保護者参加型の企業説明会を実施したことから、保護者の評価が高い傾向にあった。</p> <p>○進路意識の低い生徒が多く、主体的に進路活動をさせることが難しい。</p>																						
改善策	<p>○担任による進路面談の充実を図る。</p> <p>○学年団の協力を得て、進路行事の事後指導の徹底を図る。(まとめ、発表、お礼状等)</p>																						

平成30年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 9		<進路指導部>									
	生徒	保護者	教員								
	学校は、進路に関する情報を充分提供している。	学校は、進路に関する情報を充分提供している。	学校は、進路に関する情報を充分提供している。								
結果	教員										
	保護者										
	生徒										
		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年より評価が低い。</li> <li>○進路だよりの情報が伝わっていない。</li> <li>○進路指導にかける時間が少ない。</li> <li>○いかに保護者に届けるかが課題である。</li> </ul>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路だよりの保護者への伝達の徹底。(進路、担任)</li> <li>○「総合の時間」など、進路指導にかける授業時間の確保。(教務)</li> <li>○一斉配信メール等により、保護者に直接情報を配信する。(総務)</li> </ul>										
改善策											

意識調査No. 10		<保健部 総務部 農業部>									
	生徒	保護者	教員								
	学校は、安全な学習環境づくりに取り組んでいる。	学校は安全な学習環境づくりに取り組んでいる。	学校は安全な学習環境づくりに取り組んでいる。								
結果	教員										
	保護者										
	生徒										
		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%
原因及び反省	<p>(今年度新設の調査につき昨年度比なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○A+Bの割合が教員が90%、保護者が89%、生徒が72%だった。</li> <li>○教員、保護者では概ね安全な学習環境がつけられていると感じているが、生徒は教員、保護者ほどは感じてない。</li> <li>○アンケートの実施時期が7月だったため、クーラー設置に対する要望が多かった。</li> </ul>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の考える安全な学習環境とは何かを、アンケート等を実施して把握する。(総務部、保健部)</li> <li>○クーラー設置について、保護者と共に協議する機会を持つ。(PTA担当)</li> </ul>										
改善策											

平成30年度 福島県立相馬農業高等学校 学校運営・運営ビジョンに関する意識調査 分析

A: 当てはまる (そう思う) B: だいたい当てはまる (だいたいそう思う) C: あまり当てはまらない (あまりそう思わない) D: 当てはまらない (そう思わない) 無回答

意識調査No. 11		<総務部 農業部>	
	生徒	保護者	教員
	学校のホームページをよく見る。	学校のホームページをよく見る。	学校のホームページをよく見る。
結果	教員	保護者	生徒
	A, 13%	A, 10%	A, 6%
	B, 37%	B, 29%	B, 14%
	C, 50%	C, 45%	C, 57%
	D, 0%	D, 15%	D, 23%
		無回答, 1%	
原因及び反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒のC・Dの数値からホームページに変化がないと見る回数が減ってしまうのではないか。</li> <li>○結果からCの数値が多いのでBの方向に持って行くような工夫が必要である。</li> <li>○相農ニュースの印刷物で満足しているのではないか。</li> </ul>		
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○最新の情報を掲載するとともに教員が積極的なPRをしていく。</li> <li>○ホームページ更新を年間計画する。</li> <li>○「ホームページを見る環境にない」という保護者の回答があったので、携帯電話やネット環境に限ったアンケートを実施し実態を把握する。(総務部)</li> <li>○毎日見たいと思えるようなHPづくりをして、販売物アピールにもつなげる。(総務部、農業部)</li> </ul>		